



気づき・考え・実行する 児童生徒を育むために

青少年赤十字 活動実践事例集

2020

日本赤十字社小樽保育所

● 根室市立北斗小学校

● 恵庭市立柏陽中学校

● 札幌山の手高等学校



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

はじめに

INTRODUCTION



新型コロナウイルス感染症の拡大は、子どもたちをとりまく環境へ大きな影響を及ぼしています。

感染予防のため学校生活をはじめ様々な場面で制約がある中、子どもたちが自らやっていこうとする気持ちをいかに作っていくか、価値ある体験をどう作るかが課題になっていると思われます。

そのような中、青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という具体的な行動を実践し、その活動を通じて自らが学び、お互いを尊重することで、誰の心中にもある「やさしさ」と「思いやり」の心を育んでいます。

現在、北海道内では398の学校（園・所）が青少年赤十字に加盟し、活動しています。

これらの学校（園・所）では、自分たちの住んでいる地域や、世界に目を向け、「気づき」「考え」「実行する」という青少年赤十字の態度目標を実践し、様々な活動を行っています。

このたび令和2年度における青少年赤十字の実践活動をまとめた事例集を作成しました。

本書を通じて、今後の青少年赤十字活動のヒントとなり、また、加盟を検討している学校（園・所）においては参考資料としてお役に立つと幸いです。

令和3（2021）年4月

日本赤十字社北海道支部



青少年赤十字（JRC）とは

はじめり



子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。

これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）は青少年赤十字を創設することを決めました。日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。JRCはそれから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えます。

JRCが大切にしていること

JRCの実践目標

健康・安全

生命と健康を大切にする

奉仕

人間として社会のために、人のために
尽くす責任を自覚し、実行する

国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、
仲良く助け合う精神を養う

気づき

身近な問題を発見する

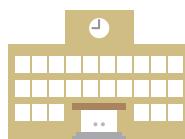
考え

問題解決のための
道筋や方法を探る

実行する

活動に取り組み、評価と
反省を次へ活かす

JRCの導入・活用のメリット



赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実が期待できます。

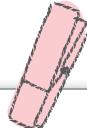
赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。赤十字そのものを「教材」として存分にご活用ください。

JRCとSDGs

国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、赤十字では目標の達成にも貢献しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 餓餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 業界と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	



01 テーマ

THEME

- ① 園庭での野菜栽培
- ② 園庭や玄関前庭の草花育成
- ③ 園庭の整備
- ④ お年寄りとの
カレーライスづくりと食事会



02 活動の内容

CONTENT

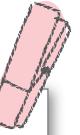
- ① 園庭を活用し、5月にキュウリ、ピーマン、ミニトマトの苗植えや枝豆、インゲンなどの種撒きをし、収穫までのあいだ水遣りや雑草とりを行った。
収穫時期を迎えると、年長組の園児が収穫し、収穫の都度、野菜を使ったお菓子や給食献立の材料とした。
- ② 園庭や玄関前に草花を植え、園周辺の環境美化を行った。
- ③ 園庭の害虫や草駆除を行い、作業を容易にするほか景観を保った。
- ④ 例年、園児の祖父母等お年寄りに呼びかけ、園児と一緒にカレー作りと食事会を行っているが、本年度は年長の園児のみの参加として、カレーライスづくりを行った。



03 活動のねらい

PURPOSE

- ① 野菜栽培を通して農業の大切さや植物の成長過程を学び、命や自然への興味・関心を育て豊かな心情を育む。
また、収穫した野菜を給食やおやつの材料として使うことにより食育に繋げる。
- ②③ 草花を育てることで、草花の成長を通じて命の大切さを学ぶと共に園周辺の環境美化を進める。
- ④ カレーライスづくりを通して、食への関心、調理への興味・関心を醸成する。



EXPANSION

活動の展開 04

① ② ③

5月……………畑作り、苗植え
6月～9月…世話、隨時収穫

④ 10月14日実施



ACHIEVEMENT

成 果 05

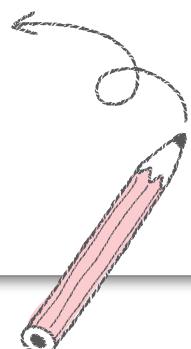
活動のねらいに記載した目的はほぼ達成できた。

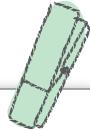


REFLECTION

反省点 06

- 新型コロナウイルス感染対策として、子ども達が接する機会を減少する必要があり、その対応に苦慮した。
- 奉仕団員や祖父母を招かない対応としたので、園児と外部の方の交流という観点では、ねらいを達成できなかった。





01 テーマ

THEME

- 健康・安全(防災、感染症対策)
- 国際理解・親善(トピックアルバム、日本の伝統芸能)



02 活動の内容

CONTENT

- 災害について学び、防災と身を守る方法を身につける。
- 感染症から身を守る。
- 加盟校との交流を深める（トピックアルバム交流）
- 日本の伝統芸能について学び、伝えていく。



03 活動のねらい

PURPOSE

- 災害について学び、防災と身を守る方法を身につけよう。
- 感染症から身を守ろう。
- 加盟校との交流を深めよう。（トピックアルバム交流）
- 日本の伝統芸能について学び、伝えよう。



EXPANSION

活動の展開 04

【健康・安全】

● 防災

- ・第5・6学年で、災害と防災について知る。身を守る方法を考える。
- ・第5学年は1日防災学校、第6学年は防災マップづくりを行う。

● 感染症対策

- ・感染症に対する理解を深め、日々の学校生活で意識して予防するよう指導する。
- ・校外学習等でも予防に努めるよう、準備をする。
- ・感染症に対して偏見を持たないよう、日常から指導する。

ACHIEVEMENT

成 果 05

【健康・安全】

● 防災

- ・第5・6学年で、災害と防災について知り、身を守る方法を考えることができた。
- ・第5学年は1日防災学校を行った。青少年赤十字から講師を派遣してもらい、段ボールベッドを作って、避難所生活について考えた。
- ・第6学年は防災マップづくりを行い、家の中での防災について考えた。

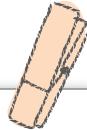
● 感染症対策

- ・感染症に対する理解を深め、日々の学校生活で意識して予防するよう指導した。
- ・校外学習等でも予防に努めることができた。
- ・感染症に対して偏見を持たないよう、道徳の時間や日常のホームルームで指導を続けた。

REFLECTION

反省点 06

- 今年度は異例の事態で、感染症拡大防止への対策を講じることが多かった。
- 感染症についての知識を深めるとともに、十分な対策ができた。
- 助成金のおかげで、充実した活動や対策を取ることができた。
- トピックアルバム交流の話を受け、コロナ禍ではあったが、世界の人を広く知ることができた。また、機会があればやってみたい。
- 防災についての講師派遣がよかったです。校区の中学校にもつなげていきたい。



01 テーマ

THEME

☑ ボランティア活動の推進



02 活動の内容

CONTENT

- ① 校区内の公園清掃活動。
- ② JR恵み野駅周辺の清掃活動。
- ③ 各種募金活動。
- ④ ボランティアによる校内清掃活動。
- ⑤ 小中一貫と地域との協働による植樹升への花植活動。

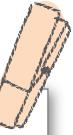


03 活動のねらい

PURPOSE

- ① ボランティア活動の重要性を体感させ、地域の人と交流する。
- ② 公共機関を大切にする意識を育てる。
- ③ 街頭募金活動に参加し、募金の用途や重要性を理解させる。
- ④ 自分たちが使用している施設を大切にする意識を育てる。
- ⑤ 小学生・地域・保護者と一体感を持って、「花の街 恵庭」を創る。





EXPANSION

活動の展開 04

生徒会の活動と関連づけ、生徒会執行部が青少年赤十字の一員で有り、学校のリーダーであることを意識し各種活動を行った。

- ① 5月に地域の医療関係者やスーパーマーケットへ新型コロナウイルス感染防止に向けた応援メッセージを全校生徒で作成し贈った。
- ② 9月にJR恵み野駅周辺の清掃活動を自主ボランティア生徒約60人を集めて行った。
- ③ 12月に自主ボランティア生徒約70人を集めて、新型コロナウイルス感染症対策の為、校内で1週間赤い羽根共同募金活動を行った。
- ④ 毎月、美化委員と学級美化班で、靴箱清掃を実施した。日々の校内の清掃活動以外でも来客用の靴箱も含めて、しっかりと清掃活動を行っている。
- ⑤ 7月の土曜授業日に、小学生約100人、CS（コミュニティスクール）役員及び地域住民の約80人、保護者約40人、教職員30人が一体となって、学校横の道路沿い両サイド約200Mの植樹枠に約2千3百本の花を植えた。

ACHIEVEMENT

成 果 05

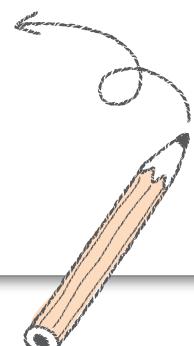
- 本校の教育の重点目標達成のために、「貢献」をキーワードとして、CS（コミュニティスクール）の協力で地域の方と協力して清掃活動や花植活動を行っている。「ふるさと教育」として自分達の住む地域を大切にする気持ちや地域の人達に支えられていることへの感謝の気持ちを持つことにつながっている。
- 各種活動を通して参加した多くの生徒は、自分の活動が社会において役に立っていることを実感し、ボランティアをすることは、良いことであり大切なことであるという意識が高まり、実践的な行動力の育成につながっている。
- 設立し3年目を迎えた若草小・柏陽中コミュニティスクールの協力活動として、7月の花植の活動は今後も継続していく、今ある活動を学校と地域がさらに協力して行えるように、一層工夫していきたい。



REFLECTION

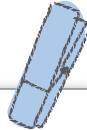
反省点 06

- 赤い羽根募金活動が後期の生徒会役員による実施のため、11月の実施になってしまう。気温の低い時期で、6時間授業後の放課後に実施する活動のため風邪やインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症などの健康面で心配がある。できるだけ早い時期で実施日を模索する。
- 募金活動やボランティア活動などの実施予定をできるだけ早く保護者メールや地域への学校便り等で知らせた。今後も継続が必要である。
- 小中で連携した児童会と生徒会の募金や清掃ボランティア活動の取り組みができるいか更に検討を進める。



札幌山の手高等学校

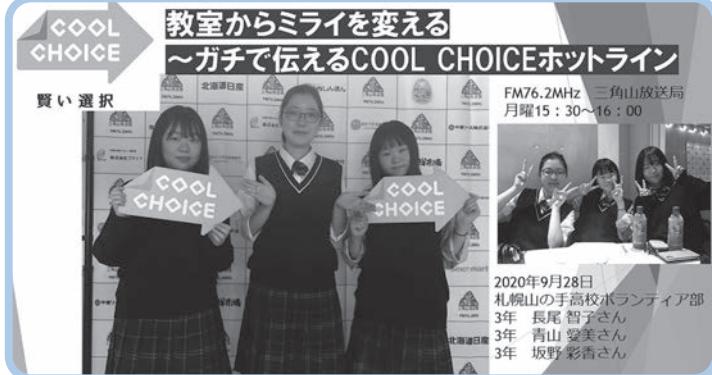
昭和39(1964)年加盟



01 テーマ

THEME

合いの手(愛の手)、孫の手、山の手ボランティア!



02 活動の内容

CONTENT

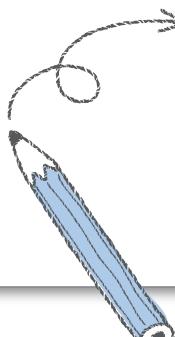
- 「合いの手」のように相手のリズムに合わせ、優しさをもって（愛の手）。
- 「孫の手」のようにかゆいところに手が届くサポートで相手に気持ち良さを。

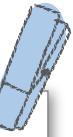


03 活動のねらい

PURPOSE

- 気づき、考え、実行する生徒を育てる。
- ボランティア活動を通じて、豊かな人間性を育む。
- どんなに小さなことにも「ありがとう」の感謝の気持ちをもてるようになる。





EXPANSION

活動の展開 04

① 三角山放送局ラジオ番組出演

- ・番組名：『教室からミライを変える～ガチで伝えるCOOL CHOICEホットライン』
- ・環境行動の国民運動「COOL CHOICE」と「SDGs推進」関連番組として身の回りの行動から自分たちが取り組むべき環境活動をラジオから地域に呼びかける内容。収録時間90分、放送時間30分。

② 傾聴ボランティア

- ・実践前に、講習「認知症高齢者との関わり方」を部員全員が受講。札幌市西区第2地域包括支援センターの社会福祉士を講師に傾聴ボランティアの事前学習を行った。お話し・歌好き!お料理好き!との事前情報により、1時間の滞在時間でフルーチェづくり（トッピングあり、包丁・火不要メニューを訪問メンバーで事前に選定）をし、童謡と一緒に歌ってきた。

ACHIEVEMENT

成 果 05

① 三角山放送局ラジオ番組出演

- ・今回出演するにあたり調査してわかったことは、「便利・贅沢は環境に悪い」ということ。

簡単にできるエコの取り組み例

旅行にはmy歯ブラシを持っていく、マイ水筒でペットボトルゴミを減らす、服のゴミを減らす（リメイク、リサイクル）、野菜を全部調理する、好き嫌いをなくして全部食べる、…などなど。

② 傾聴ボランティア

- ・はじめての経験でお互いにとても緊張したが、1時間をアップという間に、とても楽しく過ごすことができた。ご家族も高校生のフレッシュさにとても喜んでくださった。
- ・次のメニューは「ホットケーキ！」と意気込んだ矢先に北海道が外出自粛、本校も休校となり、この活動も一時休止。結果、1回のみの実施となつたが、コロナが落ち着いたら、またぜひ再開させたいと互いに願っている活動である。

REFLECTION

反省点 06

- コロナの影響で例年行われていた多くの活動すべてが中止となってしまった。
- そのような中、三角山放送局からラジオ出演の依頼があり出演を即答、出演を機に「エコ生活」について生徒自身も真剣に考えることができた。
- 生徒の活動意欲が高く「コロナ禍で出来るボランティア活動はないか?」と西区社会福祉協議会へ相談したところ、見守りが必要な高齢者の紹介があり傾聴ボランティアへ繋がった。
- 傾聴ボランティア開始前に顔合わせでご自宅へ伺い、ご家族・社会福祉協議会から、性格や身体能力、注意事項などの情報共有する会議を経験。情報をもとに、生徒は限られた滞在時間で「何をどのように行うか?」を真剣に考えていた。
- 1回目の訪問終了後、すぐに生徒が主体となってミーティングを開き、2回目の準備を始めたが、2回目の実施前日に活動の一時中止が決定、生徒はとても残念な様子だった。
- この活動に向けて全ての部員が「気づき」「考え」「行動（しようとしていた）」したことはとても大きな収穫だった。
- 生徒の意欲を無駄にしないためにも、コロナ禍で行える活動を次年度はさらに共に探していくたい。



日本赤十字社 北海道支部
Japanese Red Cross Society

